

平成29年度第2回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成30年1月30日（火）10時から11時55分

場 所： 墨田区役所8階 82会議室

議事内容： 1 開 会

2 福祉保健部長あいさつ

3 議事

(1) 第三次墨田区地域福祉計画（後期）11月末時点の報告
主に利用者の声について

(2) 来年度改訂予定の計画について

ア 墨田区障害福祉計画【第5期】・墨田区障害児福祉計画【第1期】

イ 墨田区高齢者福祉総合計画・第7期介護保険事業計画

ウ 墨田区次世代育成支援行動計画・墨田区子ども・子育て支援事業計
画改訂

(3) 「我が事・丸ごと」の地域づくり、包括的支援体制の構築に向けて

4 閉 会

【会議資料】

資料1 「第三次墨田区地域福祉計画（後期）11月末時点の報告 主に利用者の声」

資料2 「来年度改訂予定の計画について」

資料3 「我が事・丸ごとの地域づくり、包括的支援体制の構築に向けて」

「地域共生社会の実現に向けて」

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏 名	所 属	出欠席
山 口 稔	関東学院大学教授	出席
鈴 木 洋	墨田区医師会会長	欠席
大久保 勝 久	東京都向島歯科医師会	出席
青 山 晰 子	墨田区薬剤師会副会長	出席
鎌 形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘 司 康 男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野 原 健 治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼 田 典 之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
横 山 信 雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗 田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
宮 村 柚 衣	墨田区男女共同参画推進委員会	出席
石 鍋 光 子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	欠席
伊 藤 林	個人ボランティア	出席
井 上 久 子	録音グループかりん会長	欠席
齊 藤 宮 子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外 川 浩 子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席
青 木 剛	墨田区福祉保健部長	出席
石 井 秀 和	墨田区子ども・子育て支援部長	出席
北 村 淳 子	墨田区保健衛生担当部長	欠席
鹿島田 和 宏	墨田区地域力支援部長	出席

事務局

厚生課長 三浦 博司
 保健衛生担当参事 岩瀬 均
 介護保険課長 岩下 弘之
 高齢者福祉課長 福田 純子
 福祉保健部副参事 梅原 和恵
 子育て支援課長 浮田 康宏

厚生課 東條、堀井、柴田
 障害者福祉課 西村
 高齢者福祉課 瀧澤

議事録

【1】 福祉保健部長あいさつ

本日の議題の紹介等をした。

【2】 議事：第三次墨田区地域福祉計画（後期）11月末時点の報告 主に利用者の声について

厚生課長から、資料1を用い、各事業の利用者の声及び利用者の声に対する改善点等を報告した。また、関係委員から各事業の詳細等についても説明があった。

【3】 議事：来年度改訂予定の計画について

(1) 墨田区障害福祉計画【第5期】・墨田区障害児福祉計画【第1期】について、障害者福祉課主査から報告した。

【質問と回答・意見】

○次期計画に新しく加わった「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」及び「障害児支援の提供体制の整備等」とはどういったものか。(委員)

⇒「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」については、そのあり方や協議の場の設置等を既存の地域自立支援協議会の専門部会を活用して検討していく予定。

「障害児支援の提供体制の整備等」とは、障害児に関するサービス等を掲載したものである。なお、この内容に関しては前計画にも掲載していたが、法律改正に伴い改めて明記したものである。(障害者福祉課主査)

○墨田区社会福祉事業団が運営している発達障害者の施設があるが、利用者の増加が見られるため、新たに本所地区などに施設が必要だと思う。今後、この計画にその内容を記載してくれるとありがたい。(委員)

○保育園にいる障害児等に対する現況確認として区からの訪問があるが、半年に1回程度で頻度が少ない。そのため、民間に個別依頼をして月1回来てもらっている。区からの訪問を増やすことやマンションの1室を区が借り、発達障害児の施設にするなどの対応を考えてもいいと思う。(委員)

(2) 墨田区高齢者福祉総合計画・第7期介護保険事業計画について、介護保険課長から報告した。

【質問と回答・意見】

○今後、若年人口が増えて、高齢化率は下がっていくのか。(委員)

⇒64歳以下が増加し、65歳以上74歳以下が減少し、75歳以上が増加する見込みとなっている。(介護保険課長)

○区民の負担は増えるのか。(委員)

⇒75歳以上の人口が増え、介護給付を受ける人が増えることを鑑みると負担は増えると思う。(介護保険課長)

⇒老人クラブの新年会でも話したが、老人クラブの目標は健康で楽しく生活を豊かに過ごしていく、健康寿命を延ばしていくことであると考えます。また、外に出て来られない人にも手を差し伸べていきたい。(委員)

(3) 墨田区次世代育成支援行動計画・墨田区子ども・子育て支援事業計画改訂について、子育て支援課長から報告した。

【質問】

○保育園の定員数はどれくらい増えたのか。(委員)

⇒平成29年度は850人程度の定員増を目指していたが、保育士不足で700人弱の増加予定である。平成30・31年度で1,000人の定員増を目指す。(子育て支援部長・子育て支援課長)

○どのようにして施設を増やしているのか。(委員)

⇒国や都の制度を最大限に活用している。また、墨田区でも独自に保育所への支援を厚くしている。(子育て支援部長)

○いつかは保育所も使わなくなるが、このような箱ものをどんどん作って大丈夫か。保育所を作る段階から、その後の施設の活用方法も考えた方がいい。(委員)

⇒運営法人が物件を所有している保育所もあるが、最近の新設園のほとんどが賃貸物件を活用している。情勢に応じて契約更新時期等に当該法人が保育所の運営を続けるかどうかを考えると。ただ、国の動向から見ても、しばらくは保育所の必要性は高いと判断できる。(子育て支援部長)

○他区では保育所の開設について反対もあるようだが、墨田区ではどうか。(委員)

⇒報道にあるような「反対」という感じではなく、どちらかという子どもの安全確保に関心を持っていただいているように見られる。(子育て支援部長)

○周辺に保育所が沢山あるのに、さらに家庭センター跡地に保育所を作ることによって道路の混雑等が想定されていて地域住民でも議論がある。地域の声を聞きつつ、家庭センター跡地の活用方法について検討して欲しい。(委員)

⇒様々な意見を聞いて、検討していきたい。(子育て支援課長)

【4】 議事：「我が事・丸ごと」の地域づくり、包括的支援体制の構築に向けて事務局から概要を報告した後、副会長から下記のとおり補足説明があった。

【副会長補足説明】

「我が事・丸ごとの地域づくり、包括的支援体制の構築に向けて」の内容は、1つ1つ見ると新しいものではなく、もともと、自治体や民間がやってきた考えを国がまとめたものである。

具体的な中身を見ると、地域包括ケアをいかに進めるかということである。

ただし、最近の流れを見ると地域包括ケアを進めることが地域福祉になると考えられているが、そうではないことに注意が必要である。

地域福祉には、2つの考えがある。もともとあったアメリカ式の考えで、自分たちの町の目指すべきものは何かを把握して課題を見つける。伝統的には社会福祉協議会が行ってきた。

2つ目は、イギリス式のコミュニティケアという考えである。地域社会の中で障害を持っても年を取っても過ごせるようにするには、何ができるのかという考えである。

今回の「我が事・丸ごと」の考えは第3次安倍内閣から出てきた。その考えの中で、地域福祉計画には、高齢分野・障害分野などの共通部分を盛り込みつつ、各計画の上位計画として位置付けなさいという内容だった。ただし、上に位置づけるのは大変である。地域福祉計画を主流化することは他の計画が主流でなくなるということであるが、本当にそれでいいのか考える

必要がある。例えば、この地域福祉計画推進協議会が上に立つと各計画の協議会で決めたことに対して却下ができることになる。現実にはそういうわけにはいかず、他の計画の協議会で決めたことは尊重して、地域福祉計画推進協議会でやることは、地域福祉の独自部分と他の計画の共通部分を定めることである。

墨田区地域福祉計画の理念が最初にあって、その中に地域包括ケアがある。つまり、地域包括ケアを先に作るのではなく、理念を実現するための手段である。

墨田区地域福祉計画は、地域包括という考え方と民間の地域福祉活動の考え方をうまくコーディネートしていけるようなプラットフォームを作っていく考え方に落ち着いていくと思う。

【5】 その他質問、意見等

○利用者の声は窓口があって直接の声を聞いているが、窓口に行くことができない人もいる。実際に訪問歯科をすると窓口に行けない人が問題を抱えていることが分かった。窓口から行けない人も助ける必要があると考える。(委員)

○子どもの貧困はどこの部署で担当しているのか分かりづらい。(委員)

⇒現在、生活福祉課で方針を作成してパブリックコメントも行った。この協議会とは別の場所で策定報告も行っている。また、現状、区の広報誌等で周知しているが、今後も周知の仕方を工夫して区民に広がるように努めていきたい。(福祉保健部長)

○「我が事・丸ごと」の事業内容や地域での課題について、民生委員や地域包括支援センターは分かっているが、行政にまとめて情報が挙げられていない。それは、個人情報の問題もあるが行政の各課で情報共有がされていないからでもある。縦割り自体は悪くはないが、もう少し風通しが良くなってくると問題を解決していくと思う。(委員)

○墨田区は他自治体と比べて良くなってきていると聞くがそうとは思わない。なぜなら、生活困窮者や子ども食堂が増えている現状がある。言い方が悪いかもしれないが、まだまだ豊かではないと思う。このような人たちが生まれないように根本的な解決が必要だと思う。(委員)

○家庭センター跡地に施設を建設する時は、作る前に障害者の考えも聞いて欲しい。(委員)

【6】 まとめ(副会長)

今回の議事の中で重要なテーマは利用者の声である。その利用者の声をどういう風に受け止めるのが重要である。要望に応えただけで終わりではなく、利用者の声を聞いて、身近なところで支援がされていて生活ができているのかを考えなければならないし、それに加えて自分自身の役割を得られているかまで考えなければならない。

利用者がサービスを利用して居場所ができたので、介護者に余裕ができて生活が良くなったとかそこまで考えなければならない。住民は、お互いに支えられるような意識や自分たちの役割意識が高まったかどうかまで考える必要がある。専門職はノウハウが身についたか、必要な情報提供ができたかまで考える必要がある。